

内湾生態系の豊かさを支えてきた 「ゴカイ」の絶滅の危機

講師：佐藤正典 教授（鹿児島大学）

日時：9月11日（火）13:00～15:00

場所：C314号室

【要旨】日本列島は、東京湾、伊勢湾、瀬戸内海、有明海などの比較的大きな内湾に恵まれており、そこは、古来、人々にとって重要な食料生産の場だった。しかし、近年の沿岸開発によって、内湾の本来の豊かさは急速に失われ、人々にとっての主な食材だった魚介類ですらも絶滅危惧種に指定される事態になっている。

環形動物のゴカイ科多毛類は、内湾の干潟や汽水域に高密度に生息しており、魚類や鳥類にとって重要な食料になっている。かつて「ゴカイ」という和名で呼ばれていた普通種は、実は、形態的によく似た3種を含んでいた。その中の1種は、かつては西日本に広く分布していたと思われ、100年前の瀬戸内海では農地の肥料にされるほどたくさんいたが、近年、急速に分布が縮小し、現在は有明海奥部にしか生き残っていない。



この講演は5研究科共同セミナーとなります。

【問合せ先】大塚 攻（生物圏科学研究科）

（Tel 0846-22-2362; E-mail ohtsuka@Hiroshima-u.ac.jp）